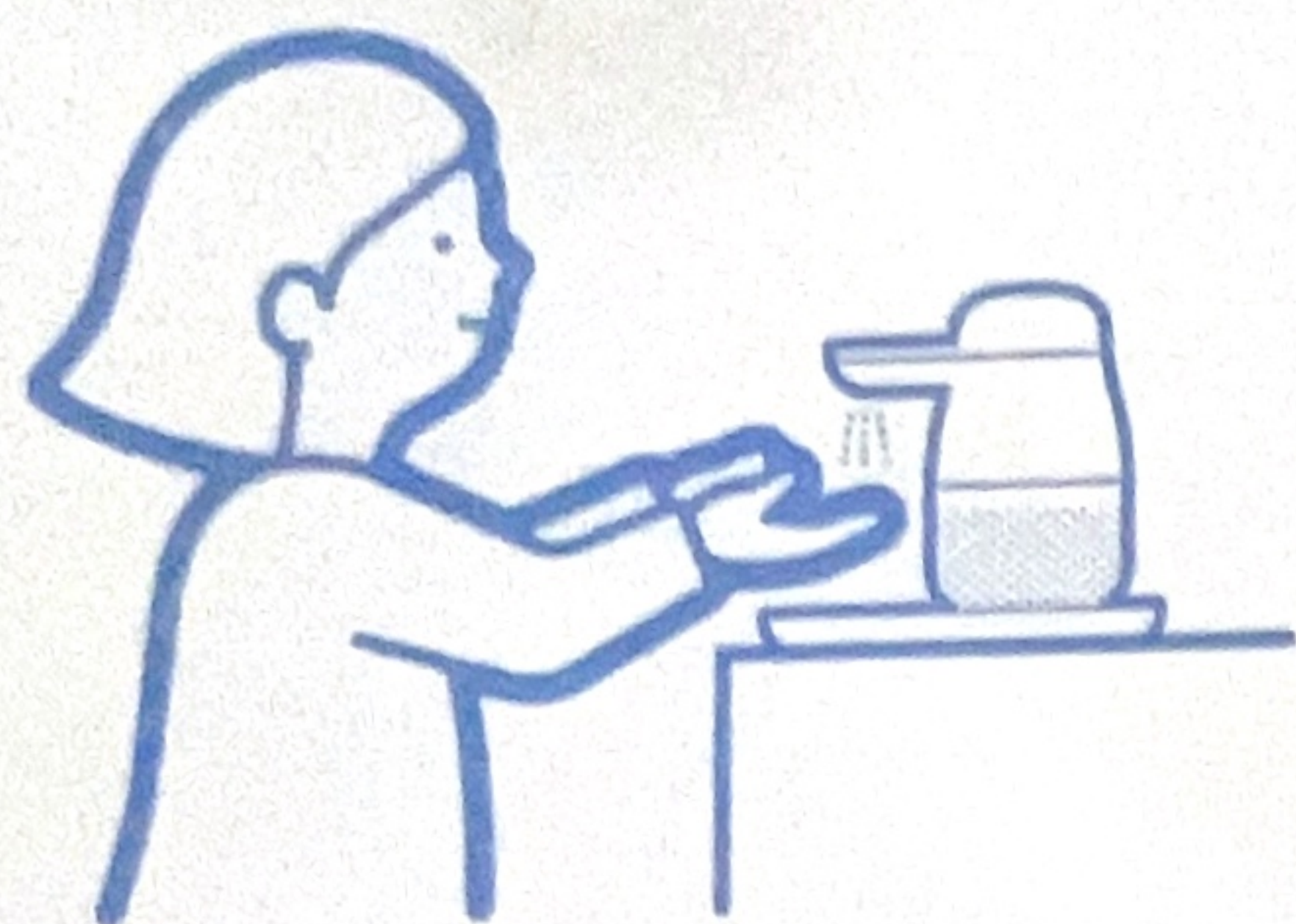


tetteではじめよう!

手指の消毒習慣



アルコールディスペンサー「テッテ」自動手指消毒器

TE500 取扱説明書 保証書付

KING JIM

手の消毒はとっても大切!

見た目はきれいでも、消毒していない手には
目に見えないばい菌やウイルスがいっぱいいます。



手すり、ドアノブ、電車の吊革...身近なところにウイルスは潜んでいます。
ウイルスのついた手で生活していると口や鼻からウイルスが侵入し、感染してしまいます。
手を消毒し、清潔に保つことで、風邪などのウイルス感染を予防できます。

さあ、今日からあなたも

tetteを使って手指の消毒習慣をはじめよう!

1 tetteがやってきた!!

さっそく中身を確認してみよう!



本体を見てみよう!

赤色LED...電源ON時は点灯します。
点滅...電源ON時に2回点滅します。
点灯...電池残量が少なくなっています。
電池を交換してください。



ノズル センサー



どこに置いても
なじみやすいデザイン



電源スイッチ

ボトル
消毒液の残量がわかります。

トレー
乾かすのに使えます。

主な仕様

外形寸法	約122(W)×162(D)×100(H)mm(本体のみ)	電源	単3形アルカリ乾電池×4本(別売)
容量	約120(W)×272(D)×100(H)mm(トレイ使用時)	容量	約500ml
質量	約350g(本体、ボトル、トレー)	動作環境	温度: 5~35℃ 湿度: 30~80%(非結露)
材質	PP(本体、ボトル、トレー)	保存環境	温度: 10~35℃ 湿度: 30~80%(非結露)

2 tetteの準備をしよう!

消毒液を補充しよう!

※消毒液はアルコール系液体タイプを使用してください。ジェルタイプの消毒液、
次亜塩素酸水は使用できません。



1 本体を回しながら、
ボトルからはずします。

・電源スイッチを「OFF」にしてください。
・消毒液を入れたボトルを傾けないでください。
・本体を逆さにしないでください。本体カバーが外れたり、
消毒液が漏れるおそれがあります。



2 ボトルに消毒液を入れます。
(約500mlまで)

・消毒液の量は、イラストのフチを超えないようにしてください。



3 本体をしっかりと
セットしてください。

・ボトルが傾かないように、本体と瓶をしっかりとセットしてください。

※新品開封時に、ボトルやチューブの中に検査用の水が少量残っている場合があります。
安全な水ですのでそのままご使用いただけますが、気になる場合には一度洗浄してからご使用ください。

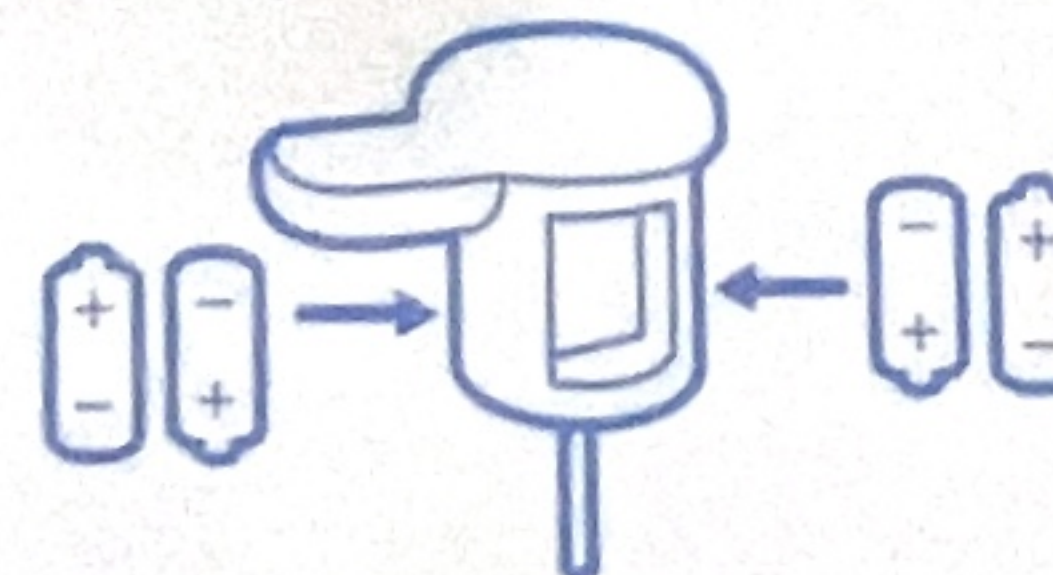
電池をセットしよう!

※充電等は使用できません。
新しい乾電池と使用済みの乾電池、または種類の異なる乾電池を混ぜて使用しないでください。



1 本体を回しながら、
ボトルからはずします。

・電源スイッチを「OFF」にしてください。
・消毒液を入れたボトルを傾けないでください。
・本体を逆さにしないでください。本体カバーが外れたり、
消毒液が漏れるおそれがあります。



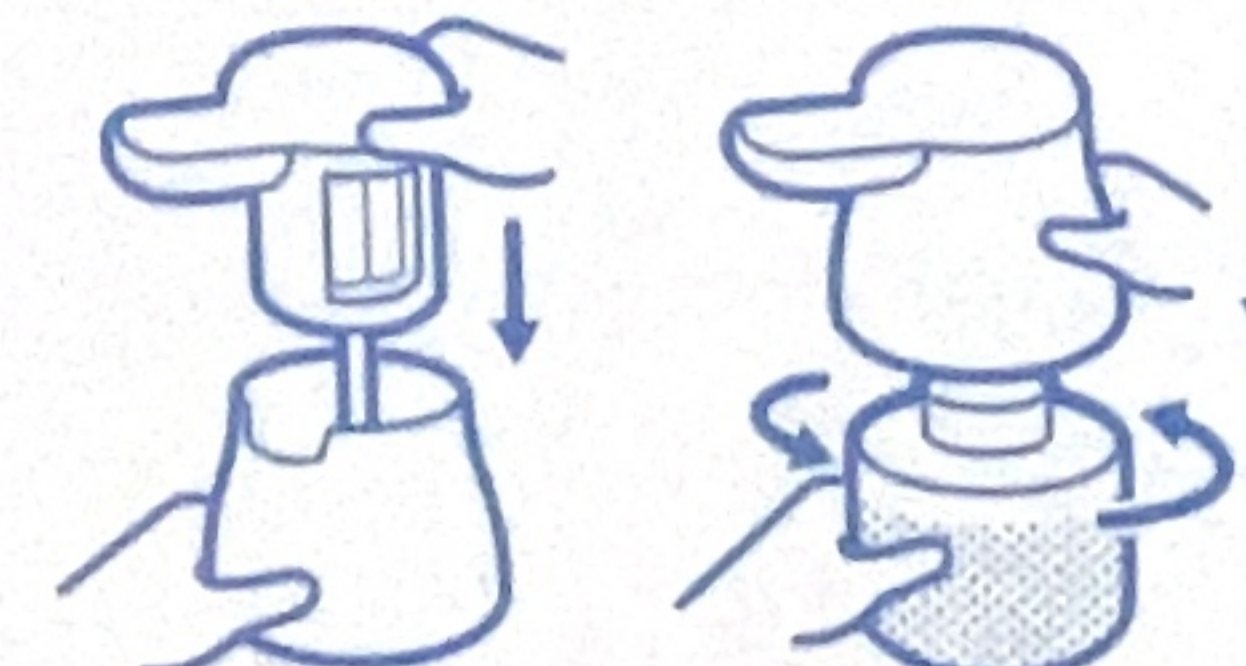
3 電池ボックスに、
電池をセットしてください。

・本体の裏面を参考に、+と-の向きを気をつけて、
正しくセットしてください。



2 本体を両手で支えて
チューブ周囲を親指で押しながら
本体カバーを取り外してください。

・本体を台の上に置いて、おこなってください。



4 カバーをはめて、
ボトルをセットしてください。

・本体とボトルがぴったり合うようにしっかりとセットしてください。

設置しよう!

トレーを必ず使用してください。

トレーは消毒液の受け皿と同時に、センサー感度の安定性を向上する役割もあります。

本体をトレーのくぼみに合わせて乗せる。



このとき、トレーの受け皿とノズルを
同じ向きにして設置してください。

・水平な場所に設置してください。
・消毒液が本体内部に入ると故障の原因となります。
・火気や火の出るおそれのある場所には、絶対に設置しないでください。
・本体に水がかからないように設置してください。
・本体は屋内に設置してください。
・直射日光や照明などの近くに設置すると動作やセンサー感度の低下の原因となります。
・本体を傾けると消毒液が漏れてくる場合がありますので注意してください。
・トレーには、消毒液が溜まらないようにしてください。センサー動作の原因となります。
※別売(TEH10)を使用すると、壁にも設置が可能です。

